



会員レポート

「改正基準法と構造設計」

(一面からの続き)

審議、意見交換の中において、以下のような提案がなされました。

- ・活動報告の中に示されているように、JSCA千葉の会員がJSCA本部の技術委員会における各種委員会、日本建築学会の各種委員会、関連団体の研究会などに数多く参加し活動していることから、ストラクチャーなどの機関紙報告だけではなく、会員同士が会し、直接的に情報の交換、共有ができる場を持つてほしい。

上記提案につきましては、研修委員会、技術委員会、ホームページ運営委員会、会員委員会などの委員会にて具体的に企画検討をしていきたい旨回答がなされた。

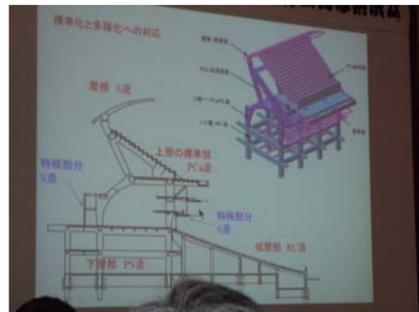
JSCA・千葉 平成21年度定期総会記念講演会

定期総会後の午後3時より行われた定期総会記念講演会は「改正基準法と構造設計」というテーマでJSCAの理事でもある(有)金箱構造設計事務所 代表取締役 金箱温春様に講演を頂いた。JSCA・千葉監査役の(有)マサ建築構造設計室 代表取締役・真崎雄一氏より講演前において、講師紹介を作品の紹介とその背景、人間性に触れるインタビューが行われました。



出席者は行政関係の方々、設計事務所の若き所員、関連団体の方々、賛助会員の企業の方々をふくめ120人を越える出席を頂きました。

講演に先立ち、齋藤代表より
・社会は何を建設業関係者に求めているのか。



上：金箱温春 下：先生の作品から

・安心な建物を作るシステムはどうあるべきか。

- ・構造設計者として我々はどうあるべきか。

について金箱氏の講演を大いに参考としていただきたい旨

会員委員会定期便

JSCA千葉「見学会」を10月頃に予定しています。

(明智・斎藤・相山・榊原・苫谷)

の挨拶がなされました。

金箱氏より

- ・意匠設計者の理解と協力が重要であること。
- ・適切な設計時間と報酬が必要であること。
- ・法制度に負けない(戦う姿勢)努力が必要であること。
- ・無茶はできないが、創造的、個性的な設計努力の要望。
- ・耐震改修工事はとても重要であり、環境改善も含めた設計手法にも努力してほしい。

といったメッセージをJSCAの委員としての活動、自らの設計作品を通し、具体的な課題とその解決のための話題の展開という形で講演が進められました。

最後に、約7000人の構造設計一級建築士がJSCAに集結できるよう協力を頂きたいこと、さらにJSCAが安心安全な社会資本づくりに大いに活躍できるよう協力頂きたい旨の言葉を頂き、講演は活発な質疑に伴う意見交換の後終了いたしました。

JSCA・千葉平成21年度定期総会 懇親会

講演会の後夕方5時30分より、同ホテルにて80人を超える出席を頂き、懇親会が開催されました。

行政、関連団体、賛助会員の企業の方々、会員事務所の将来のJSCAを支える若手構造設計者など多くの参加を頂きました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

齋藤代表からは江藤晋平の業績を例に取り、法律(基準)運用が国民に主権が移るような裁判員制度の運用が始まる今、我々も自主性を持って、社会に貢献すべく、法遵守を前提に安心安全な都市づくりに積極的に参画し、努力してゆく必要がある等の挨拶がなされました。

会員であります真崎氏のバンド演奏および歌声により、懇親会は明るい雰囲気、建設業界の不景気を吹き飛ばすような楽しい一時を過ごすことができました。

二次会は若手技術者とベテランが三々五々それぞれの場所で楽しいコミュニケーションの時間を過ごされたという報告を受けました。

皆様のご協力に心より御礼申し上げます。



ハンクマサ&リジェンド カントリー

(園部隆夫 記)

妙正寺本堂造営工事現場見学会に寄せて

見学日時：平成21年5月7日午後1時

見学場所：千葉県市川市北方町4丁目2122番地

工事概要：日蓮宗妙正寺の本堂新築工事

木造平屋建て、170.23 m²

高さ、軒高 10.367 m、5.313 m

基礎 ベタ基礎

連休明けの初日に、ちょうど建て方中の現場に着いて、骨組みの外観が見られる時で張り詰めた空気が徐々に伝わってくる感じのなかで、説明会場に移動した。



建て方中の妙正寺本堂

最初に、設計者である仲村先生の紹介を、構造設計者でJSCA会員の真崎さんからさせていただいて、先生の考えや設計方針並びに経

歴等のお話をお聞きした。真崎さんの紹介でも触れられていたように、図面が大変良く書かれていて深い知識と人間味が感じ取られて、見学者がたくさん(外に、学生さんがおられました)いても、肌合いが心地良いと思いました。

真崎さんより構造の手法や設計方針を、実験などをふま

えた苦労の端々を披露していただきました。伝統工法の要である差し物や臍また貫を、バネ接合に置き換えて許容応力度設計をクリアしたとのことでした。さらに立体解析に乗せたの



1階柱脚のガラスカレットとのコラボ

でいろいろな面で苦労されたこととお話していただきました。又この建物は基本的には、ラーメン構造で柱脚が一部固定である。コンクリートと木造の柱が押し合いによる曲げモーメントおよびせん断力の処理をしている。聞くは簡単ですが、想像するにも大変なことをやっているなあと感じました。柱脚の湿気処理も新しい部材で、構造と意匠のすり合わせを考慮されていました。

続いて、真崎さんの雑談の流れからの質問がいろいろ出て、木造の約束ごとの大切さや、長いスパンでの考察(弱点も含めた)で設計や工事に携わっていることが伺えました。何か、木の持つ可能性というか、肌合いがいいというか、ますます木の魅力に惹きつけられた感じを持ちながら、帰路に着きました。大変有意義な時間と空間であったと思い、改めて真崎さんの、ご好意に感謝いたします。

(西原忠 記)

柏崎刈羽

原子力発電所の見学会に参加して

平成21年4月12~13日にかけて新潟県にある東京電力柏崎刈羽原子力発電所に行きました。平成20年の秋から企画していましたが、21年の春にやっと実現しました。

企画及び実施において多大な協力していただいた東京電力千葉支店長さんをはじめとする千葉支店の皆さん及び現地発電所の皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

電車の事故により、千葉駅を予定より30分遅れての9時に出発し、西船橋駅で5人が合流して総勢21名のバスツアーとなりました。



ツアー参加のJSCA会員と友好団体会員

た。昼食を谷川岳のふもとの新鮮な空気と大きななかまくらで涼を感じながら頂き、おなか一杯となりました。

途中TEPCO電源PR館奥利根に寄って、発電方式の基礎知識を確認しました。

皆さんなかなかの高得点でした。ホテルでは、夕食とおいしいお酒をいただきました。

震度6強の中越地震から1年8ヶ月余り、震災復旧はどのように進めているのか耐震設計や補強設計を生業としている者として興味がつきません。いよいよ明日は原発だ！。

ホテルからバスで原発に向かいました。まだ外構には傷跡が残っていました。サービスホールにて地震力の設定・被災状況・補強の現況について説明を受け、質疑応答をしました。いよいよ、原子炉建屋の見学です。警報装置も付けてセキュリティーゲートを何度も通り、靴と靴下を専用のもに替えて、やっと原子炉の近くです.....



7号原子炉を背景に

.....
地下30~50mに建屋の基礎を置く大きな箱のような建屋に被災はなかったそうです。原子炉プラントへの配管・クレーン・外構等は被災しましたが、原子炉の安全の基本は「止める・冷やす・閉じ込める」だそうで、中越沖地震のときも確実に機能したそうです。

一般の建築においても構造体の安全性は高まっていると思いますが、2次部材や仕上材・設備の被災による建物の機能停止は十分に起こりえます。道路に目を向けると電線等のライフラインの地下埋設化が進んでいますが、被災時の点検はどうするのでしょうか。今後、美しさと環境と被災時の復旧のしやすさを考慮した構造的に美しい建物を計画しなければと思いました。

(齋藤利彦 記)